

宝永山山行報告



【山行日】2016年 8月 11日(木)

曇り時々晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 5,300円

【メンバー】CL:鈴木ユ、大西、島田、関、鈴木ヤ、
福田、藤原、渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P4:00=水ヶ塚公園

P8:00/8:30=富士宮口五合目 9:10~第一火口底

10:00~宝永山 11:00/11:30~第一火口底

12:10/12:20~御殿庭分岐 12:30~富士宮口五合

目 13:10/13:30~水ヶ塚公園 P14:00/14:10=岩舟支所 P17:10

以前から登りたいと思っていた宝永山を計画した。

宝永山は富士山の南面を象徴する爆裂火口で、江戸時代宝永年間に大噴火により出来た火口だ。その痕跡をたどるこのコースは、火山である富士山を存分に楽しめるコースである。

今日は、法制化して初めて迎える「山の日」であり、お盆の帰省と併せて混雑が予想され、1時間余裕を見て出発した。ところが、圏央道は順調に走ったが、東名高速とのジャンクションが大渋滞で予想以上の時間が掛かってしまった。海老名ジャンクションを通過するのに2時間掛かり、予定より1時間遅れて水ヶ塚公園駐車場に着いた。

この時季は、7月初めから9月初めまでマイカー規制が実施され、富士宮口新五合目までは水ヶ塚公園でシャトルバスに乗り換えて行く。



水ヶ塚公園駐車場から30分くらいバスに揺られ、富士宮口新五合目に着いた。バスを降り階段を上るとトイレがあり、トイレ脇の階段を上るとレストハウスやベンチがある展望台がある。展望台では山の日イベントが行われ、地元のテレビ局が取材をしていた。我々がストレッチを始めると、テレビ局のカメラが我々の様子を撮っていた。道路を横切り、登山口から六合目までは富士山への登山道に登る。新六合目には2軒の山小屋があり、大勢の登山者で賑わっていた。

山小屋の先で、富士山への道を左に分け、直進して宝永山への登山道を進む。宝永山への登山道に入ると、登山者は無く静かな山歩きとなる。山腹を横切るように進むと、宝永第一火口入口の分岐に出る。分岐からすり鉢状の火口が見渡せ、左に下って行くとベンチが置かれた第一火口底に

着く。火口底から見上げる景色は赤茶けた砂礫の斜面と、黒い溶岩の岩壁が覆いかぶさるように迫り迫力がある。

火口底から馬ノ背への登りは、砂礫の急登で靴が潜って歩きにくい。さらに富士山頂から大勢下山してくるので、下山者が巻き上げる砂ぼこりには閉口した。途中、馬ノ背から宝永山への稜線に出る、ショートカットの道に避けると静かに歩けた。稜線に出ると富士山頂まで見渡せたが、ガスが出てきて視界を遮り何も見えなくなる。稜線を右に進み、緩やかに下って行くと間もなく山頂に着く。



山頂からは素晴らしいパノラマを見られるはずだったが、あいにくガスが濃くなり展望は得られない。

大きな台座に守られた山頂の標識があり、記念写真を撮り台座を借りて昼食を作った。本日の山ご飯は、冷したヌキうどんにした。冷凍麺をゆ



でた後氷水で冷やし、器に盛ったらキュウリやミョウガ、大葉等の千切りをトッピングし、天かすを載せて冷やした麺つゆをかける。暑い時期にピッタシと好評で、又どこかの山で作ろうと思った。大展望を見たいとガスが晴れるのを待つが、なかなか晴れないので諦めて下山する。下山は来た道に戻り、第一火口底で休憩し、ナシや菓子をいただく。第一火口入口まで戻り、分岐を左に下り御殿庭分岐を右折し遊歩道を進む。遊歩道は今までと違い、樹林帯の中を歩くようになる。

林床には草花も多く咲いており、ミヤマアキノキリンソウやミヤマキンポウゲ、オンタデ等の花が目を楽しませてくれる。登山道は歩き易く、緩やかにアップダウンを繰り返しながら新五合目に着いた。新五合目の展望台では和太鼓の演奏など、山の日イベントが行われ賑わっていた。

バスの時刻を確認すると、10分後に発車するというので急いでトイレを済ませバスに乗る。

30分足らずで水ヶ塚公園駐車場に着き、ザックを車に積んで帰路につく。帰りは高速道も渋滞はなく、順調に走り予定の時刻に岩舟支所に帰着した。今回は山頂からの大展望が見られなかったが、富士山の歴史を肌で感じられ、又秋の天気の良い日に登りたいと思った。